

交流クラスを教えるまで 学生達の独り言より考えさせられた事

増山栄一エリック

【キーワード】 日本語教育、日本語カリキュラム、教授法、交流プログラム、
交換留学生、

はじめに

7月19日の夜の出来事であった。日本語教育に携わっている教師達の小さな集まりがあって、筆者もそこにいた。米国の大学で教授していた頃から十数年以上親交のある某大学の留学生センターの所長が筆者の所へやって来てこう言うのである。「この前さー、大東の交流学生っていう子達4人とたまたま話すチャンスがあって30分ぐらい話したんだけど、何か今取っているクラスに関して、すごく不満足らしくて文句タラタラだったよ！学生の言う事が百パーセント正しいわけじゃないけど、彼らの交流プログラムに関して言いたい事が書ける評価アンケートもないとかで、時間があったら、エリック、聞いてあげれば？それも教師の務めじゃない！」

翌日の20日は筆者にとって交流クラス最後の授業で、しかも期末試験であった。筆者は、交流クラスを教授し始めて2006年前期終了で丸一年という、まだ浅い経験しか持っておらず、交流クラスの評価アンケートの有無も知らず、自分でそれを作成して学生達に回答要請するにも、別科や交流センターにOKを取るべきなのであろうが、その時間もない。学生達の意見に耳を傾けることは交流クラスを更に良くすることに繋がると思い、非公式ではあるが、期末試験終了後の十数分を利用して、大東文化大学協定校交換留学生の為の日本語特別コースに関して、彼らの独り言として、率直な意見を聞いてみた。既に上記したように、『交流クラスを更に良くするが為』に学生達が話してくれた彼らの独り言を以下に掲載することで、筆者がその目的の為に切磋琢磨して行くデータとしたい。また、読まれる方々の何かの参考になれば、「更に良いのではないか！」と思いつつ、この論文を執筆することとした。

大東文化大学協定交換留学生の為の日本語特別コースとは

まず、交流学生達の履修している日本語特別コースについて説明をしていきたいが、その為には最初に大東文化大学の協定校交換留学プログラムに関しての簡単な記述から始めたい。1975年、オーストラリアのブリーシス大学が2名の学生を送って来たことで大東大の交流プログラムが開始された。85年頃になっても状況は変わらず、2名の学生が毎年ブリーシスから送られてきていたが、それから大東大の先生方の個人的なコンタクトを通して、学部ベースの協定交換が少しずつ増え始め、それらが大学ベースの協定交換に発展して行くことになる。現在全世界で58大学と大東大は交換協定を締

結しているが、その約半分はまだ学部ベースの協定交換となっている。協定校はアメリカ、イギリス、インド、インドネシア、エジプト、オーストラリア、カナダ、韓国、タイ、ドイツ、中国、ニュージーランド、パキスタン、フィンランド、そして、モロッコの国々に存在し、2006年前期の時点では、23名の交換留学生在がこれらの国の様々な協定校から大東大にやって来ている。また、大東大からは目下31名の学生達がこれらの国の協定校で学んでいる。

協定校の留学生達は、主に、単位が認定される学部留学生科目を履修しているが、それに加えて、大学によっては単位が認定される日本語特別コースを取っていて、この日本語特別コースを別科のスタッフが国際交流センターの依頼で教えている。協定校の交流学生達は学期の初めにプレースメント試験を受けることで、基礎日本語1, 2, 3といった各々の学生の語学力に合った文法及び文型中心のクラスにプレースされる。これらのクラスは普通一週間に4回ほど教授され、2人から4人といったチームティーチングで教えられている。また、『読んで話す』、『読んで書く』、『聞いて話す』、『会話』、『日本文化特別演習』、そして『多文化交流演習』等といった、一般日本語クラスに加えて、もっと教授内容の絞られた特別科目も用意されていて、学生達のニーズに従って随時教授されている。

学生達の独り言

筆者が今回交流クラスに関して意見を求めた学生達は上記の日本語特別コースを履修していた9人の学生で、いずれも英語を第一言語及び第二言語としている学生達であり、従って以下の質問はすべて英語で行われた。

(1) アンケート：質問

下記の5つの質問を9人の学生達に尋ねてみた。それらの下には日本語の翻訳を記載しておく。

- 1) For how many semesters have you taken *Daito's* Japanese language programs?
(大東の日本語プログラムを既に何学期受講しましたか。)
- 2) For how many semesters are you planning to take *Daito's* Japanese language program?
(大東の日本語プログラムをこれから何学期受講しますか。)
- 3) What are the strengths of the Japanese language program of which you are aware after taking *Daito's* Japanese language program?
(あなたの気が付いた大東の日本語プログラムの長所は何ですか。)
- 4) What are the weaknesses of the Japanese language program of which you are aware after taking *Daito's* Japanese language program?
(あなたの気が付いた大東の日本語プログラムの短所は何ですか。)
- 5) Most importantly, will you please tell me what kind of courses you would like to take the most in order to improve your Japanese language skills?
(もっとも重要な質問として、あなたの日本語力を高める為にもっとも受講したいクラスはどんなクラスなのか、教えて下さい。)

(2) アンケート：回答結果

以下が回答結果である。筆記という形態で上記された質問に回答してもらった。学生によっては、最後の質問に30分以上も費やして、A4の用紙1枚以上も意見を書いていった学生も複数いて、学生達の日本語の学力向上に関する強い関心と真剣さを感じざるを得なかった。

1) For how many semesters have you taken *Daito's* Japanese language programs?
(大東の日本語プログラムを既に何学期受講しましたか。)

1 semester 7人

2 semesters 2人

2) For how many semesters are you planning to take *Daito's* Japanese language programs?

(大東の日本語プログラムをこれから何学期受講しますか。)

1 semester 3人

2-3 semesters 1人

No more semesters 5人

3) What are the strengths of the Japanese language program of which you are aware after taking *Daito's* Japanese language program?

(あなたの気が付いた大東の日本語プログラムの長所は何ですか。) 複数回答

自分の必要と思われる特別クラスが取れるオプションがある。(2名)

違った教師が違ったスタイルや違った教授法で教えるので偏らない日本語教授が受けられる。(2名)

クラスを多く取っているので、学習の基礎を築けるし、やる気を失わない。

ある先生のクラスでのクラスメートと一緒に会話練習は良かった。(3名)

日本人の教師のみでの日本語教授

心地よい学習環境

少数制

クラス内でのワークシート使用の練習

良い教授陣(2名)

授業スピードが丁度良い。

日本国内でのプログラム

丁度良い時間内での様々な文法学習

日本語を先生と一緒に話せる機会

日本語を聞く話す書く等の様々なアングルから学習できた。

4) What are the weaknesses of the Japanese language program of which you are aware after taking *Daito's* Japanese language program?

(あなたの気が付いた大東の日本語プログラムの短所は何ですか。) 複数回答

クラス内での学習者のレベルの相違

1クラスの一週間における授業時間の少なさ

一週間に取れるクラスの少なさ(2名)

クラス外での課題の欠如(2名)

文法の出来合い教材のみを使った、考える必要のない、応用性を持たない練習

(3名)

授業スピードの遅さ(2名)

復習のみの授業(2名)

不十分な練習

不十分な聞く話す練習

適切な教授法の欠如(例えば文法のみ学習)(2名)

生きた日本語学習の欠如

5) Most importantly, will you please tell me what kind of courses you would like to take the most in order to improve your Japanese language skills?

(もっとも重要な質問として、あなたの日本語力を高める為にもっとも受講したいクラスはどんなクラスなのか、教えて下さい。) 複数回答

聞く話す(会話)に焦点を置いたクラス(8名)

文法中心でないクラス(3名)

集中/もっと学べる漢字クラス(2名)

ディスカッション(2名)

出来合いの教材を使わない応用性実用性を持ったクラス

いろいろな種類の口頭練習(2名)

クラス外での課題の必要性

クラス内でのクイズの必要性(語彙、文法、及び漢字)

もっと学べるしっかりとした日本語クラス

もっと相互作用、練習、体験を重視したクラスの必要性

学生達の独り言より考えさせられた事

冒頭でも述べたが、「学生の言うことが百パーセント正しい訳じゃないけど、彼らの交流プログラムに関して言いたい事が書ける評価アンケートもないとかで、時間があつたら、エリック、聞いてあげれば?それも教師の務めじゃない!」という知人からの提言で上記のアンケートを取ってみたのであったが、最後に、学生達の独り言を聞いて読んでみて考えさせられたことを幾つか挙げて、それらをいつか交流クラスの更なる改良に繋げたいと渴望しながら、私のこの思考録を締めくくりたい。

今回意見を聞いた学生9名の内7名がアメリカの大学からの交換留学生であった。筆者は15年余り米国の様々な大学で日本語教育を行ってきた為に、これら学生達のアンケートの質問4)と5)の回答に理解を示さざるを得ない。『聞く話す(会話)に焦点を置いたクラス』を必要と思っている学生が8名いたというアンケート結果は、実は想像出来ていた。米国の日本語教育の主流は現在コミュニカティブメソッドで、1,2年の日本語クラスでは話すことと聞くことが最優先で教授され、中級に上がったところで本格的に読みと書きが加えられて行く。しかも、その教授法の中では、教授された事柄を現実的な状況の中で使用できるようにインクラスで実用、応用練習を何度も口頭で行い

身に付けていかせる。このような練習に慣れている(慣れていないにしても、もっと相互作用、練習、体験が語学上達に不可欠と思っている)学生からは、『文法中心でないクラス』(3名)の必要性や『文法の出来合い教材のみを使った、考える必要のない、応用性を持たない練習』(3名)の不必要性が指摘されても当然なように思われる。

今回の学生達の独り言より私の強く感じる事は、現行の文法及び文型に重きを置いた別科のカリキュラムを(欧米学生の)交流クラスに利用するのは適切ではないということである。別科生は一週間に約20コマの時間を費やして一年間をかけて日本語を学んでいく。しかし、交流学生はその数分の一しか授業量はなく、『一週間に取れるクラスの少なさ』(2名)を嘆く学生がいても当たり前であろう。そんな状況において文法と文型紹介型のクラスでは練習が不足してしまうのも否めない。『ある先生のクラスでのクラスメートと一緒にの会話練習は良かった。』と3名の学生がコメントしているが、交換学生達のニーズは正にそこにあるのではないだろうか。加えて、別科では様々な理由からクラス外での課題を学生に課してはいないが、別科生より授業量の少ない交流学生には宿題も、そして毎回のクイズ(別科ではクイズもない)も必要なのであろう。

交流学生が20名を超えたのは、昨年から連続で2年目であり、協定校からの交換留学生の数は増える状況にあると、国際交流センターは予測している。今回の独り言の中に、“We came to Japan to LEARN JAPANESE! We all want to be able to be ‘上手’ in the end.” というのがあった。これから来る学生達も同じだと思う。こんな状況を踏まえた時、「もっと良いプログラムが作りたい!」と思うのは私だけではないのではないだろうか?